

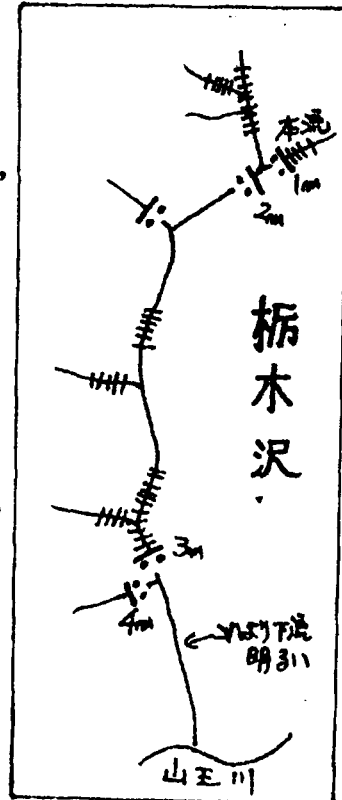
栃木沢

1985年8月1日

7:00 栃木沢の下降開始。下り始めてすぐ小さなルンゼに出、それをたどる。左からの支沢を合わせたあと、すぐに本流に出る。そして2mの滝。楽にクライミングダウン。この沢もナメがあるが、隣の戸石沢ほどよくは発達していない。また、沢全体が深い林の中を流れていて、暗い沢であるが、沢そのものは極めて平凡である。

30分程下降した所でこの沢で二つ目で最大の滝、3mに出会う。右岸に踏跡があるので、それを利用する。この先しばらくすると、樹林帯からぬけ出て沢が明るくなり、水の流れは伏流となった。しかしそこはもう山王川本流を目前とするあたりだった。

【タイム】 栃木沢下降開始(7:00)→下降終了(7:40)



鬼怒川支流馬坂沢流域の沢

馬坂沢は、帝釈山系の南面を構成する鬼怒川の源流帯を構成する支流の一つである。現在林道工事が進められていて、将来は檜枝岐まで通ずる予定という。この流域の沢2本を紹介する。

サイル沢

迷沢(仮称)右俣(下降)

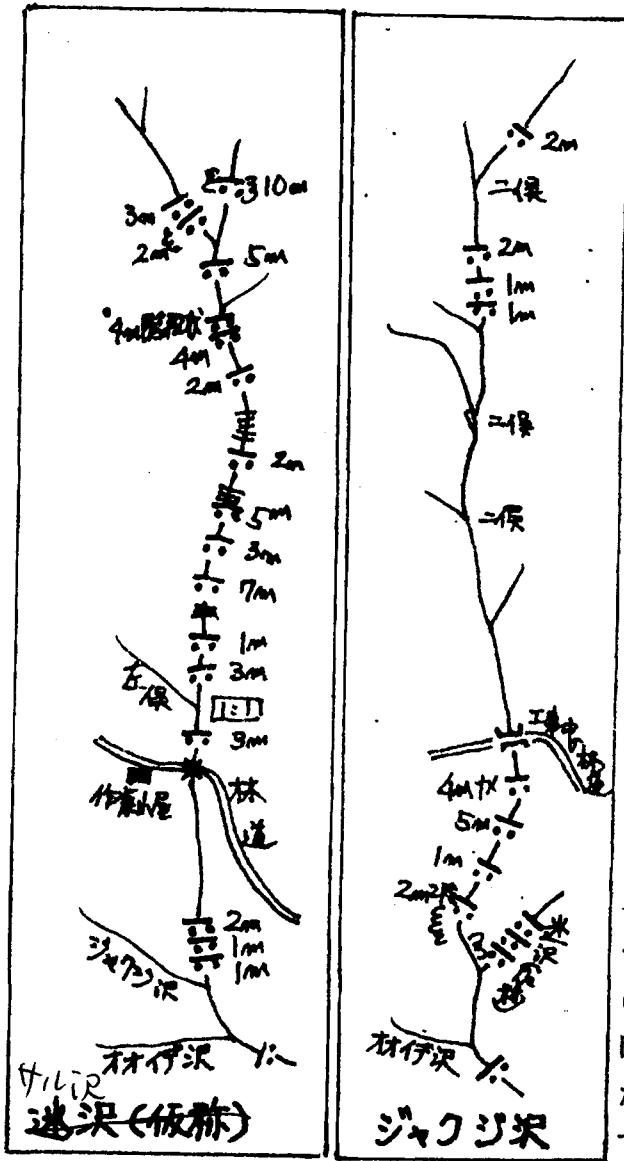
1985年9月7日

L

今日の目標は、田代山から真南に南流する無名沢を下降して、ジャクジ沢を遊行することである。地図の間違いのため、さんざん首をひねったので、この無名沢を迷沢と仮称して報告する。

田代山登山口に車をデポして、田代山を越えて、8:40迷沢(仮称)の下降点到着。さっそく下降を開始する。

クマザサをかきわけて10分も下ると小沢の源頭となる。このあたりまだ侵蝕が



充分に通んでおらず、幼年期の沢の形状を示している。

やがて小滝が出てくるようになり、まもなく本流に出る。本流も4~5mの滝が連続して出てくる。これらの滝は、いずれも階段状であったり筋理が発達していたりして、適当にホールド、スタンスがあってクライミングダウンが可能である。風化しかかった花崗岩というものは、時には始末の悪いこともあるが、快適なホールドを提供してくれる時もある。

下降途中でサンショウウオとりのワナを見る。底をくりぬいて円筒状としたアキカンに割と目の細かい網をつけただけの簡単なものである。水の流れののってきたサンショウウオがこれに落ち込んでたまるのをまって、回収するという仕組みである。ただ、ここのワナは長いことほっておかれたままなのか、ゴミが

いっぱいたまっていた。

10:05川俣檜枝岐線林道に到着。林道があることなど事前の情報になく、こんな山奥まで開発の手がのびてきているのかと、少々ガッカリする。プレハブの建物が建ち、この先の延長工事も行なわれている。名前からして、県境稜線を越えて、檜枝岐まで延長されるのであろう。

林道より下流部には特記するような滝もなく、10:30ジャクジ沢との出合に到着する。

迷沢(仮称)右俣の下降はこれで終了したわけであるが、ここで一つ指摘してお

かねばならない重要事項がある。それは地図の間違いである。田代山からほぼ真南に下った迷沢(仮称)とジャクジ沢との出合は、地図にあるよりもずっと上流で、オオイデ沢との出合よりも上部であることである。現地を訪れると、一見して明らかな間違いであるが、今後この地域に入る人達のために注意を喚起しておく。

(記・

[タイム] 田代山登山口(7:15)→太子堂(8:30)→迷沢下降点(8:40)→林道(10:05, 10:20)→下降終了(10:35)

ジャクジ沢

1985年9月7日

L

オオイデ沢の入口部分の偵察を行なったあと、11:25ジャクジ沢の遡行開始。出合から少し遡った所に5m程の滝があり、これは幸先がよいと喜んだのであるが、工事中の林道を越えた先からは、全く平凡な沢となってしまった。おまけに地図にははっきりと水線のひかれている右俣の出合も、その時ははっきりそれと確信できないほど貧弱なもので、首をひねりながらの遡行となる。

沢の分岐を左へ左へと進み、13:50遡行終了。飛びでた所は帝釈山と1898m独標との鞍部から少し帝釈山方面に登ったあたりであった。(記

[タイム] ジャクジ沢遡行開始(11:25)→終了(13:50)→帝釈山(14:15)→太子堂(15:15)→田代山登山口(16:10)

2. 那須・男鹿の沢

阿武隈川源流域の沢

この地域の沢については、すでに会報のNo 6, 8, 19で、そのほとんどの沢をとりあげてきた。ここでは、まだ未収録の沢2本の記録を紹介する。

白水沢左俣左沢

1985年6月8日

L

前夜に福島を発って、甲子温泉の手前でテント泊する。一里滝沢に入る西さんらのパーティと甲子温泉で別れて、白水沢に入る。右手に白水沢最初の砂防ダム